

『「医療の隙間を埋める」～ 「考え深げな黙想と真摯な魂と輝く目」～』

『中野区がん哲学連絡会』の New Letter が送られて来た(画像)。大いに感動した。2023 年 4 月 10 日新渡戸記念中野総合病院 新渡戸稲造記念センターから、東中野キングス・ガーデンに寄り『第 6 回日本地域医療連携システム学会』の会場の『東中野区民活動センター』に赴いた。思えば、筆者は理事長として日本地域医療連携システム学会 (Japanese Association of Communication Medicine Cooperation System (JaCMS)) が 2016 年 4 月 1 日に設立された。日本地域医療連携システム学会第 1 回シンポジウム【医療維新を目指して～地域医療の今までとこれから～】が、2016 年 11 月 5 日に開催された。日本地域医療連携システム学会第 1 回学術大会【自己形成力の連携～小さな事に、大きな愛を込める～】は 2017 年 12 月 2 日(土)に開催された。

#### 学会設立の目的

*地域医療分野の総合的な連携を推進し、特に在宅医療ネットワークを構築・整備することを中心とした事業を行います。医師や看護師・コメディカルの情報共有の場として積極的に活動し、より強固なチーム医療を提供することを目的としています。そのために国内外問わず、関連学会や地域医療推進事業団体と積極的な交流を目指します。より良い医療・介護を提供するために教育活動を行い、いかに効率よくかつ安全に遂行できるか、研究、調査を行う場となるよう取り組んでいきます。*

日本地域医療連携システム学会が、『医療の隙間を埋める』試みとして全国に広がるのが期待される。人間は、自分では『希望のない状況』であると思っただとしても、『人生の方からは期待されている存在』であると実感する深い学びの時が与えられている。その時、『その人らしいものが発動』してくるであろう。【国手とは『国を医する名手の意』、名医また医師の敬称とあり『医師は直接、間接に、国家の命運を担うと思うべし』】とのことである。『日本の傷を医す者』(矢内原忠雄:1893-1961 年、1945 年 12 月 23 日の講演)が蘇った。1860 年代 遣米使節団 [勝海舟(1823 - 1899)らがいた]が、ニューヨークのブロードウェイを行進した。彼らの行進を見物した詩人ウォルター・ホイットマン(Walter Whitman:1819-1892)は、印象を『考え深げな黙想と真摯な魂と輝く目』と表現している。この風貌こそ、現代に求められる『人物』ではなかろうか。

# NEWS LETTER

2023.4

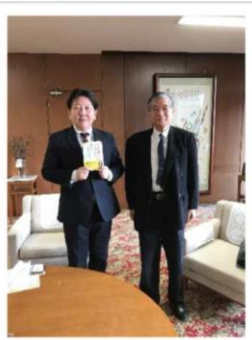
## 中野区役所訪問レポート



中野駅前にある中野のシンボル「中野サンプラザ」2023年で建て替えのためもうすぐ見納めです。

桜の開花宣言とともに春の訪れを実感する日々です。皆様お変わりございませんか？今回は樋野先生とがん哲学外来東中野メディカルカフェ代表の奥山さんとともに、中野区役所を訪問したレポートをお届けします。

樋野興夫先生執筆の第253回「21世紀のエステル会」ブログより抜粋  
地域医療分野の総合的な連携～人を真心で支援する～



酒井直人中野区長と樋野興夫先生

2023年3月9日『新渡戸記念中野総合病院』から、Nakano Central Parkの『中野四季の森公園』を散策し、『中野区役所』に赴いた。『がん哲学外来東中野メディカルカフェ』主催者の奥山寧氏(東中野キングスガーデン)と『がん哲学外来白鷺メディカル・カフェ』主催者で『21世紀のエステル会』の企画部長でもあり、HP担当の太田和歌子氏と3人で、酒井直人中野区長、鈴木康平地域包括ケア推進課長、中村誠保健企画課長との面談の機会が与えられた。『中野区がん哲学連絡会』NEWS LETTER Vol.1号(2022年7月)が提出された。その中に、【「中野区と新渡戸稲造と樋野先生」：新渡戸記念中野総合病院での定例の読書会『武士道(新渡戸稲造著、矢内原忠雄訳、岩波書店)』に向かった。理事長、病院長、副院長、看護部長、事務局長、職員らが参加される。新渡戸記念中野総合病院は、1932年 新渡戸稲造、賀川豊彦(1888-1960)らにより設立された。今年は創立90周年である。】理念は【新渡戸稲造の精神「誠意と思いやり」を基にした医療を誠実に実践し、疾病を抱えた人を真心で支援する。】と謳われている。また、【筆者が新渡戸稲造記念センター長に就任してから、世界的名著である『武士道』の読書会が毎月1回開催されている。今回は、第13章「刀・武士の魂」であった。事務局長補佐による音読後、皆様と自由討論の時間を持った。初めて参加された事務職の方も居られ、大変、有意義な貴重な時となった。勝海舟の『蚤や虱だと思えばいいのさ。肩につかまって、チクリチクリと刺しても、ただ痒いだけだ、生命に関りはしないよ』が、今回は大変印象に残った。まさに、「武士の究極の理想は平和である」の精神であろう！『良き読書』には、その時々によって『心に響く言葉の処方箋』がある！】と記載されている。『日本地域医療連携システム学会』開催でも話が盛り上がった。【本学会は、地域医療分野の総合的な連携を推進し、—— 地域医療推進事業団体と積極的な交流を目指します。第1回～第5回の『日本地域医療連携システム学会』(添付)を紹介した。中野区でも『日本地域医療連携システム学会』が実現したら歴史的大事業となろう！『中野区役所』の訪問は大変貴重な時となった。



樋野興夫先生の最新刊「もしも突然、がんを告知されたとしたら」

